



Cisco Unified Reporting Web アプリケーション

- [統合されたデータのレポート, 1 ページ](#)
- [レポートの生成に使用するデータ ソース, 1 ページ](#)
- [サポートされている出力形式, 2 ページ](#)

統合されたデータのレポート

Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Communications Manager IM and Presence サービス コンソールからアクセスする Cisco Unified Reporting Web アプリケーションは、トラブルシューティングまたはクラスタ データの調査のための統合レポートを生成します。



(注) 特に指定のない限り、このマニュアルの情報、注記、手順は Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスに適用されます。

このツールは、クラスタ データのスナップショットを簡単に作成する方法を提供します。このツールは、既存のソースからのデータの収集、データの比較、および異常の報告を行います。Cisco Unified Reporting でレポートを生成すると、レポートでは、1 台以上のサーバにある 1 つ以上のソースからのデータを結合して、1 つの出力ビューを作成します。たとえば、クラスタ内の全サーバの *hosts* ファイルを表示するレポートを参照できます。

Cisco Unified Reporting Web アプリケーションは、インストール時にクラスタ内のすべてのサーバに展開されます。レポートは、データベース レコードから生成されます。

レポートの生成に使用するデータ ソース

このアプリケーションでは、パブリッシャサーバと各サブスクリバサーバに格納されている次のいずれかのソースから情報を取り込みます。

- RTMT カウンタ
- CDR_CAR (Cisco Unified Communications Manager のみ)
- Cisco Unified Communications ManagerDB (Cisco Unified Communications Manager のみ)
- IM and Presence DB (IM and Presence サービスのみ)
- ディスク ファイル
- OS API 呼び出し
- ネットワーク API 呼び出し
- prefs
- CLI
- RIS

レポートには、レポートの生成時点でアクセスできるすべてのアクティブなクラスタ ノードのデータが取り込まれます。パブリッシャ サーバのデータベースが停止している場合は、アクティブなノードのレポートを生成できます。System Reports リストにある Report Descriptions レポートは、レポートの情報ソースを提供します。

サポートされている出力形式

このリリースでは、レポートの HTML 出力をサポートしています。Cisco Unified Reporting では、レポート名と日付と時刻のスタンプによってレポートを識別できます。このアプリケーションでは、ユーザが表示できるように最近のレポートのローカル コピーが保管されます。「新しいレポートのダウンロード」で説明しているように、最近のレポートのローカル コピーまたは新しいレポートをハードディスクにダウンロードすることができます。レポートをダウンロードするときは、区別するためにダウンロードするファイルの名前を変更するか、別のフォルダに保存できます。

関連トピック

[レポートの管理](#)